

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホームお母さんの家	ユニット名(3 階)
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2297-17		
自己評価作成日	令和 5年 10 月 23日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境でお天気の良い日は散歩や外気浴にでて季節の花々を愛でながらゆったりとした時間を過ごすことができます。敷地内の小さな畑では毎年トマトやナスを育てており散歩ついでに野菜の成長を観察し収穫を楽しんでいます。職員手作りの食事は調理の音や匂いを感じながら温かいうちに提供され、皆様の楽しみの一つになっております。近隣の乳児院とは子供の日や敬老の日、ハロウィンやクリスマス等で交流が多くあり、小さなお子様たちの姿に入居者様は笑顔になられております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出入口に事業所の基本理念と、地域密着型の理念を掲示しています。職員一人一人が意識して理念に添った忠実なケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	誕生会やクリスマス等の各催し時には、歌や踊りのボランティアを受け入れております。また敬老祭には地域の保育園から園児が来所され、歌や踊り楽器の演奏を披露して下さい、入居者様とのふれあいが行われています。二か月に一回、理容師に散髪を受けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議地域の代表や民生委員の方から地域の独居高齢者の話を伺っている。又、認知症地域サポート相談窓口を設け、介護に対する質問等、いつでも相談を受け付ける旨を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣のグループホームとの合同会議が2回、デイホームお母さんの家との合同会議が2回と年4回の運営推進会議を行っています。現在はコロナ禍の為状況をみながら行っています。意見交換や情報の共有をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市等からの通知、主催の研修に積極的に参加しています。運営上の問題や疑問、課題が生じた場合は、市担当者に電話やファックス、市役所窓口で相談したり、アドバイスを得ています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては理解してケアを実施しています。玄関の出入り口の施錠に関しては、入居者様の安全確保の為夜間のみ施錠を行っています。転倒、転落の危険のある入居者様に対しては、御家族様に説明を行い、同意を頂いた上で、必要な時間帯のみ使用します。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深めるためにも、職員全体で高齢者虐待防止関連法を学んだり、虐待に関するカンファレンスやミーティングを行っている。職員同士の連携を図る事も防止策の一つであると考え、連携を深めることにより虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度関連の研修に参加し、日常生活自立支援事業、成年後見制度について学習する機会を設けています。必要な機会がある時は、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得	契約時には疑問点が残らないよう、重要事		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	項、運営基準、料金について一つ一つ丁寧に説明を行っています。介護保険の自己負担額や加算について説明、納得された上で契約をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に「ご意見箱」を設置し、匿名の意見や要望を頂いております。重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記しています。家族面会時や電話連絡時に御意見を伺ったり、頂く事も職員同士共有、話し合い検討している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回社長、管理者が集まりzoomでのミーティングを行っています。又、そこで話し合った内容を運営やケアに反映されています。日頃の職員の会話の中から、管理者は、職員の意見や思いやを聞くように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設職員の体調や家庭の事情等も配慮し、互いに協力し合い無理のない様に調整している。法定基準に定められた範囲内での労働時間となっている。各種資格取得に向けた啓発と取得後の資格手当を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料を全職員で共有し、代表者は職員の研修の機会を設け、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型サービス協議会に加入して近隣のグループホームと、互いの運営推進会議に参加したり、協議会主催の会議や研修会に参加して同業者との交流を行い、質の向上に活かしていますが、現在はコロナ禍の為、中々勉強会等の活動は行えておりません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い、本人様、家族から聞き取りを行い意向、要望を確認している。生活歴、病歴の把握や、入所されて不安に思う事等を確認している。入居され生活に馴染めるまで、職員が寄り添い不安感の解消や、環境整備を行い、生活に馴染んで安心して生活を送って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行い、御家族や、御本人様との会話やコミュニケーションの中から、サービス提供にあたり、不安な点やその他要望があるかを聞きとり、寄り添っていく事で、家族や本人の不安感の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話連絡時や面会時には、御家族様から話をお聞きし、望んでいる事や、不安に感じている事があれば確認を行い、本人との会話の中から、本人にとってどのような関わりが効果的か、本人が今、何を必要としているのかを理解し、良好な関係が築ける様に支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりの生活歴、性格等を職員		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	が把握し、よき理解者として、手を差し伸べながらお互いが支え合える様な関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人らしさを第一にし、本人と、家族の意見も取り入れながら、本人と家族の架け橋となれるよう、今の本人様には何が必要かを一緒に考え、ケアに活かせるようにしている。又、最近ではLINEを活用し、日々の様子等をご家族様へ連絡を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等、自由に出入りできる環境である。家族の方と共に外出されたり、食事をされたり、お茶をされたり、気分転換や家族と本人の時間を持てるようになっている。又、本人が連絡を取りたい時に電話連絡等が自由に取れるようになっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、声を掛け合い、支え合いながら、日常生活を送られている。又、自分ひとりの時間を大事にされている方もおられる為、その際は、本人の意志決定を大事にして過ぎて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、関係先の病院等を通じて、必要時には、相談が受けられる様、関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様それぞれに生活パターンが違ってくるため、自分らしく生活が送れる様に、本人の希望や、意向の確認を行ってケアに反映させている。本人からの聞き取りが困難な場合は、ご家族様より意向を確認し、その都度、職員が話し合い、検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のファイル、薬剤情報は事務所で管理しており、本人が暮らしやすい環境が整えられるように努めている。居室には、テレビやテーブル、ソファ等今まで使われてきた家具を設置している。家族から聞き取りを行い、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活介護記録で、本人様の日々の様子を記入している。カンファレンスを行い、本人様の状態を把握し、ケア内容は、その都度見直しを行っている。一人ひとりの生活リズムに沿ってケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態把握に努め、意見を出し合う事で、その方のニーズ検討し、ケアに活かせるよう、家族の意見や、職員の気づきによる意見も反映させた介護計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映	生活介護記録、日誌、バイタル記録等の個		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	別に記録し、情報を共有しながら、日々のケアに活かしています。毎月のカンファレンスで本人様の現状や課題を職員同士で話し合い、介護計画へ反映させている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設敷地内に、デイホームが隣接している為、短期利用型共同生活介護サービスを提供できる体制が整っている。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会等、行事の際には、出前を頼んだりしています。又、ボランティアの方に来訪頂き、歌や踊り等を披露して頂いている。又、保育園、乳児院との交流もあり、運動会では入居者様がプログラムに参加し園児達とのふれ合いを通して、入居者との笑顔が見られている。現在はコロナ禍の為、なかなか行っていない。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等からの希望や、要望を聞き受診する希望する医療機関を確認している。受診体制を整え、家族の了解の上、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師が来所し、入居者のバイタルチェック、身体状態を確認して頂いている。看護師より指示を受け、日々のケアに当たっている。24時間連絡がとれる体制となっている為、急変時の対応もとれるようになっている。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかり付けの医療機関の訪問診療を受けており、入居者の身体状態の変化に伴う、急な入院もスムーズに受け入れが出来る体制がとれている。入退院に伴う各種連絡等も、病院側と連携し、早期退院が出来るように連携を図っている。		
33	(12)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアル作成を行い、契約時に本人、家族へ説明を行っている。状態変化に応じて、係り付け医師、家族、職員で何度も話し合いの場を持ち、本人にとって最善のケアについて検討を行っている。		
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一階の施設事務所にAEDを設置しています。マニュアル作成を行い、事務所内に管理している。急変時や、事故発生時に適切な対応が出来るよう、話し合いや勉強会を行って、職員の意識を高めている。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内にスプリンクラーを設置しています。避難訓練、消火訓練を年2回実施し、全職員が安全に入居者様を避難誘導できる様に訓練を行っています。訓練後には、ミーティングを行い職員全員へ情報共有に努めている。震災に備えた入居者分の非常食や飲み水を備蓄し管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助、オムツ交換時は、居室への出入り時は、プライバシーに配慮し、ケアを行っている。又、入浴介助時は一人で、ゆっくり湯船に浸かれる方もおり、脱衣所への出入り時には、必ずロックをし、事前に声掛けを行い、入室するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コープの注文をとる際や、出前の注文をとる際は、職員と一緒に購入する物を選んだりしています。入居者様の声に耳を傾け、本人の選択を尊重するようにしています。今の感情を大切に、気分転換を含め、楽しみが持てるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、本人の希望や体調を考慮し、静養時間を増やしたり、天気の良い日は外気浴を楽しんだりし畑の野菜や花を觀賞したり、散歩をしたり、一人一人のペースに合わせて声掛けを行いながら、個々の生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助の必要な入居者には、本人の希望を確認し、服装選びを行っている。又、移動理容室を利用し、希望に沿って散髪を行っている。毎日スキンケアを行っている方もおります。外出時には、入居者がその人らしい身だしなみ(お化粧)を整え、外出なされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は、職員と入居者が会話しながら、その方のペースで、ゆったり食事が摂れる様努めている。又、テーブル拭きや、洗濯たみ等、簡単なお手伝いは入居者様の役割として、お願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によりカロリー計算されたメニューを提供している。食事、水分摂取量は記録表で把握し、不足気味の入居者には、本人が好きな飲料を提供し、脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。又訪問歯科による治療を定期的に受けられている入居者様もあり、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックで、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来る方は、声掛けを行い、トイレへ誘導し排泄介助を行っています。トイレ内での転倒の危険もある為、入居者様のプライバシーに配慮しながら見守りを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、食事野菜中心をとったメニューを提供している。フロア内でのリハビリ体操や、外気浴、散歩等で程よく運動し、便秘予防に取り組んでいる。お腹が張っている入居者の方には、腹部マッサージを行い、便秘の緩和できる様ケアを		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴となっているが、本人の希望や、状態により、いつでも入浴が出来る体制となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候を見て、散歩や、外気浴に出掛けている。外気に当たり、程よく運動を行う事で、その方らしい生活リズムを作り、安眠できるように支援している。昼食後も無理なくベッドで静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報に関しては、個人の服薬内容等を事務所内にファイリングしており、効能等も職員が、確認出来るようになっている。新しく処方された薬についても、本人様の日々の様子観察の上で、必ず記録に残し、必要時は、医師に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が、今までしてきた日課となっている事や、好きだった事、等も取り入れられる範囲で対応を行っている。又、朝の掃除や、洗濯たみ等、裁縫等の簡単な作業を、職員と一緒にを行い、本人の役割を持って生活できる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、外気浴で、外に出る機会を作っている。気分転換と運動を兼ねて近くのコンビニにも外出している。職員の勤務体制には限度があり、一人ひとりの希望に添えていないのが現状である。家族の協力を得て、外出の機会を増やしていけるよう、努めていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、一緒に出掛け、買い物をして頂くことで、本人の満足感を得られるように支援しているが、お預かりしている本人様の金銭の紛失を防ぐ為、現金は会社で立て替えて買い物時に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの希望があった際は、時間帯を考慮し、可能な範囲で自由に電話をお使い頂いている。話すことで、ストレス発散や、本人の安心感につながっている。又、最近ではLINEのよる連絡も家族様が希望された方と連絡を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダのプランターに季節の花や、野菜を植え、水やり、収穫等も入居者の楽しみの一つとなっている。又、フロア内は、季節ごとに飾りつけを行い、室内にいても、季節感を感じられる様に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの共有スペースには、テーブルやテレビを配置し、会話を楽しんだり自由に鑑賞出来る環境になっている。又、居室でゆっくり一人の時間を過ごされる方もいるので、利用者一人一人がリラックスして生活できる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や、家族に使い慣れた家具や、慣れ親しんだ物を持ち込み頂き、自由に使用して頂いている。本人、家族と相談し、心地よい環境づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、助言や誘導、利用者様の行動を見守りながら、一人ひとりの残存機能を可能な限り維持しながら、入居者の出来る力を維持していけるよう、少しでもその人らしい生活が送れるよう支援している。		